



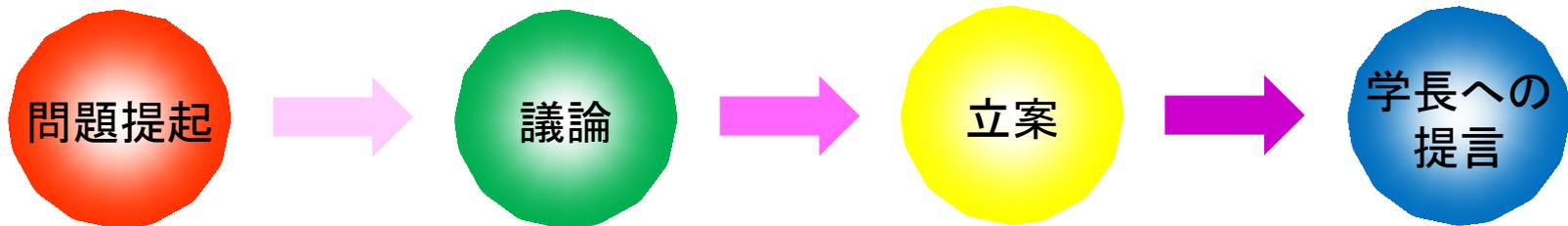
「研究戦略とURA」

筑波大学
研究戦略室長
URA研究支援室長

馬場 忠

業務目的

- ・ 研究推進方策についての調査分析および研究戦略の立案に関すること
- ・ 外部研究資金獲得支援に関すること
- ・ 学内支援制度の企画と立案に関すること
- ・ そのほか研究戦略および研究の推進に関すること

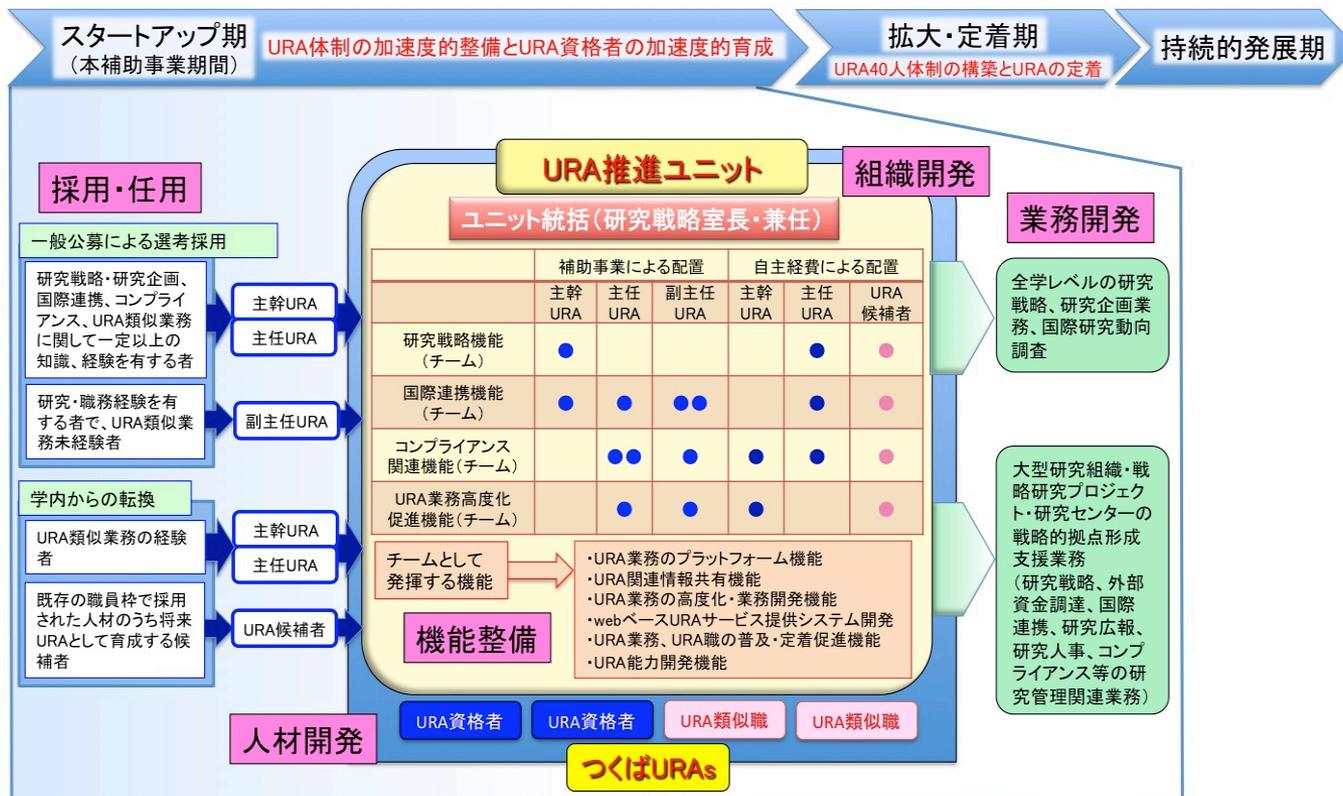


- ・ 研究大学強化促進事業について (25年4月～8月)
- ・ 国際テニユアトラック制度について (25年9月)
- ・ 教員の機能最適化について (25年10月)
- ・ URAの組織体制と業務について (25年11月～12月)
- ・ 本学の研究の将来方向性について (26年1月～2月)
- ・ 研究環境の改善について (26年4月～6月)
- ・ 教員個別評価の仕組みと実績評価について (26年7月～9月)

URA研究支援室の業務

URA研究支援室研究戦略機能チームの業務（URA育成事業）

研究企画・調査業務、そのために必要となる国際研究動向調査等を継続的に推進するとともに、研究戦略に沿った大型の組織横断型プロジェクトメイキングを推進する



大学研究力強化促進事業

これまでの取組状況と研究活動の状況分析を踏まえた研究力強化の方針

- ・ 研究力向上に関連する大学院改革、人材登用、国際化、研究推進体制の改革に関するこれまでの取組み（経緯など）
- ・ 研究に関係する人材登用、国際化、研究分野、研究推進体制などの強みと弱みや課題などの状況分析

URAへ期待したこと

- ・ 大学全体の研究力強化施策に対する客観的評価
- ・ 本学研究体制の国内外での立ち位置と改善点の把握
- ・ 本学での人事制度など制度上の理解

今後の課題

- ・ 全体の俯瞰的理解のあとでデータ収集
- ・ 研究支援者と研究者の違いを理解する
- ・ 事務職員との連携

Bメニュー：Aメニューと効果的に組合わせて実施する取組み

- ・ 研究力強化の方針との関係（強みと弱み、課題などの状況分析に基づいた研究力強化の方針に即した内容）
- ・ 研究環境改革の取組み内容

URAへ期待したこと

- ・ 国内外を考慮しながら本学に合った具体的施策の考案
- ・ 各種実施プログラムの申請から審査までのやり方の理解
- ・ 本学での人事制度など制度上の理解

今後の課題

- ・ 人事制度など制度上の理解
- ・ 予算配分を考慮したプログラム提案
- ・ 事務職員との連携

議題：研究環境の改善について（研究者の研究時間確保）

URAの作業状況

- ・ データ収集、分析、会議での説明
- ・ 会議での議論に基づいて改善案などを提案（助言と時間は必要）
- ・ 学長への提言書作成補助、提示、説明

平成26年8月1日

筑波大学学長	永田恭介先生
筑波大学副学長（研究担当）	三明康郎先生
筑波大学副学長（教育担当）	阿江通良先生
筑波大学副学長（総務・人事担当）	東 照雄先生
筑波大学副学長（企画・評価・情報担当）	大田友一先生

研究戦略室では、文科省「研究大学強化促進事業」に関連して「教員の研究時間確保」について議論し、「研究戦略室からの提言（7）」としてまとめましたので、ご報告いたします。

研究戦略室からの提言（7）
「教員の研究時間確保について」

（1）本学の現状と問題点

本学は世界トップレベルの「研究大学」として一層の研究力強化を目指しており、昨年度に採択された文科省「大学研究力強化促進事業」では、10年後に世界大学ランキングで

今後の課題

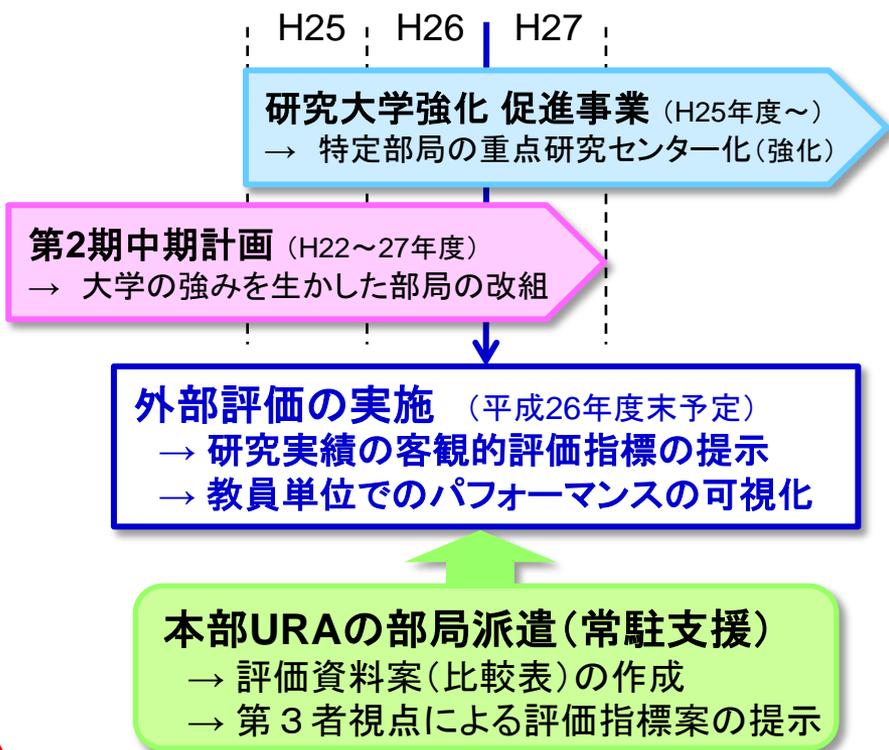
- ・ 人事制度など制度上の理解
- ・ 教員業務の実情の理解
- ・ 事務職員業務の実情の理解



今後とも時間と経験が必要不可欠であるが、それほど大きなテーマでない研究戦略支援はほぼ対応できる（知見を得ながら自分自身の考えを持つことは重要）

外部評価審査の補助的支援

URAによる重点的部局支援の例



URAへ期待したこと

- ・ 評価指標に関する技術的な知識の提供とデータ分析
- ・ 教員との密接な面談による信頼関係の構築

今後の課題

- ・ 研究大学強化促進事業の内容を見据えた適切な評価方針の提案
- ・ 自律的活動による新しい分析結果や方法の提示

URA 研究支援室研究戦略機能チームの業務

研究企画・調査業務、そのために必要となる国際研究動向調査等を継続的に推進するとともに、研究戦略に沿った大型の組織横断型プロジェクトメイキングを推進する

スキルカード上での研究戦略推進支援業務

- ・ 政策情報等の調査と分析
- ・ 研究力の調査と分析
- ・ 研究戦略策定

業績指標（責任性、複雑性、重要性、学内外貢献）

業務遂行能力指標（事業、知識、業務、語学、対人）

上級
10～15年

中級
5～10年

初級
1～5年

Take-home Messages

- ・ 最初は本部ではなく部局や個人から？
- ・ 外部資金研究費の仕組みの理解
- ・ 教員と事務職員の間にある専門職員としての自負
- ・ 研究者でも事務職員でもない新しいURA職の理解
- ・ 育成するのは誰？